



BIOSPHERE-NOOSPHERE
TRANSITION
STATE OF MISSION REPORT

**バイオスフィアからヌースフィアへの移行
ミッション現況報告**

NS:1.37 青い律動の嵐の年 (2024~2025年)
時間の法則財団・WWW.LAWOFTIME.ORG

NS:1.37: BLUE RHYTHMIC STORM (2024-2025)
FOUNDATION FOR THE LAW OF TIME • WWW.LAWOFTIME.ORG

バイオスフィアからヌースフィアへの移行

ミッション現況報告

NS1.37：青い律動の嵐の年（2024～2025年）

時間の法則財団・www.lawoftime.org



新シリウス周期 37

青い律動の嵐の年・磁気の月 1 日（2024 年 7 月 26 日）は、「時間の法則財団（FLT）」が非営利法人 501(c)(3)として設立されてから、24 周年に当たる。当財団は、『13 の月・28 日の暦に基づく時間の法則の研究と普及、およびバイオスフィアからヌースフィアへの移行の追跡』を目的として設立された。

財団の目的は、時間の法則の進化に対する指針となるヴィジョンを創出・保持することであり、同時に、バイオスフィアからヌースフィアへの移行という前例のない出来事に私たちが舵取りしていくうえでの「全体的なシステムコンテキスト」を提供することにある。もちろん、2000 年の設立当初においては、FLT のヴィジョンの多くが 2012 年という日付を意識したものであり、それを「意識シフト」のための機会と見なしていた。

私たちは今、2000 年 10 月 20 日（NS1.13.4.3）KIN185、オレゴン州ポートランドにて FLT が設立された当時とはまったく異なる時代に生きている。もはや、かつてのように「時間」に余裕があるわけではない。

この「ミッション現況報告」をまとめるに当たっては、外的な義務の急増や変化し続ける三次元的情勢に対応しながら、集中のための時間を確保することに少なからぬ困難があった。本来であれば、ここでさらに多くの内容を展開したい思いもあったが、「青い律動の嵐」の日にこれを発表することが重要であると感じ、こうして公開した。（※補足：スマートフォンよりもコンピュータの方が見やすいレイアウトになっている）

また私たちは、情報過多の時代にあり、人々の注意がますます短期的になってきていることも認識している。とはいえ、「時間の法則」のミッションの現状と、バイオスフィアからヌースフィアへの移行の中で、私たちがどこに位置しているのかについて、多少のコメントと概要を記録しておくことが責務だと感じている。

簡単に振り返ると、この教えは、時間の法則に関する全ての知識同様に、故ホゼ・アグエイアス／ヴァルム・ヴォタンという先見性に富んだ時間の魔法使いによって最初にもたらされたものである。彼は未来へと延びていくヴィジョンを絶えず生み出し続けた。それらのヴィジョンは、時間を遡って橋を架けることを必要とするものであった。

これまでの年月を通じて、財団は数多くの出版物や図版、カレンダー／シンクロノメターを発行し、様々なイベントや瞑想会に携わり、また、多くのプロジェクトを支援し、毎年の「13の月の暦アルマナック」や毎月の「ニュースレター」も作成してきた。

2020年に、私たちは「[9年間のヴィジョンマップ](#)」を発表したが、「青い律動の嵐」の今、まさにその中間点に到達している。これまでの年月を通じて、この情報の普及に尽力してくれた全てのキンと翻訳者たちに、心からの感謝を捧げたい。その献身的で無私の働きは、決して見過ごされるものではない。

「バイオスフィアからヌースフィアへの移行」に関する要約

「ヌースフィアは、普遍的なコズミック・マインドの多次元的尺度にコード化されている。コスモス（宇宙）は、それを知覚する知性と知覚レベルに応じて、異なるかたちで現れ・経験される。」——『コズミック・ヒストリー』第1巻

バイオスフィアとは、全ての生命の統合の総体である。ヌースフィアは惑星の「マインド・スフィア」であり、それを自覚しているかどうかにかかわらず、私たちが生きる世界における「より高次のテレパシー的マインド」と捉えることができる。それは「シンクロニック・オーダー（共時性秩序）」に基づいて現実を生み出している。ヌースフィアは、自己反映的な意識を通して顕現する。

時間の法則の教えの流れは、実際には1987年のハーモニック・コンバージェンスに始まったといえる。ハーモニック・コンバージェンスは、人類のヌースフィアの無意識領域における顕現、つまり、地球のメンタル圏に宿るテレパシー的な全体性として捉えることができる。

ヌースフィアにおいては、単一的、線形的、あるいはどちらか一方の意味に限定される物事は何一つ存在しない。むしろ、全てが放射状に知覚され、あらゆる物事を結びつける複数の対応関係のセットとして理解されるのである。

時間の法則の主要な機能の一つは、ヌースフィアを無意識の領域から意識的な気づきの場へと引き出すことである。

私たちがバイオスフィアからヌースフィアへの移行を進める中で、「内部告発者（ホイッスルブローワー）」や真実を語る者たちが果たす役割の重さを認識することが重要である。様々な分野における隠された真実を明らかにするという彼らの役目は、人々が

別の選択肢を考慮するための道を示すうえで不可欠であり、そこには計時周波数変更の必要性も含まれている。

人々が自らの思い込みを超えて別の選択肢を考慮し、実際に変化を起こすに際しては、一般的に、それに先立って、世界とそこにおける自分の位置づけに対する一連の幻想喪失の体験がある。

現在、多くの人々が内なるフラストレーションを表している。それは、真の現実が手の届かないところにあり、自分たちの内で意識化されようとしている記憶の断片の中に存在するという感覚である。

表面へと浮上しようとする、この眠れる教えは、内面に静かでありながら持続的な緊張感を生み出す。それは、何かもっと深い真実が存在しているという感覚——手が届きそうで届かない、それでも明らかになるのを待っている何かへの予感である。こうした感覚は、私たちを通して意識に立ち昇ろうとするヌースフィアの一部なのである。ヌースフィアについてさらに詳しく知りたい方は、『ヌースフィア宣言』および『時間とテクノスフィア』を参照されたい。

教えの様々なレベルに関する省察

『地球とは一つの類型である…… 信じるかどうかにかかわらず、信念体系とは時間の機能である。あなたが信じているものが、自らが生きている時間を定義している。あらゆる信念体系は、それが組み込まれているカレンダーと時間感覚によって維持されている。』——ホゼ・アグエイアス／ヴァルム・ヴォタン』

自己教育の責任は、私たち一人ひとりにある。

私たちの惑星的状況を、宇宙進化というプロセスの文脈の中で理解することは重要である。このプロセスの中で、私たちは自己反映的意識をもって、そのプロセスに不可欠な一部を形成している。

政治的なものも軍事的なものも含め、現在のあらゆる制度は、不調和な性質をもつ計時基準の機能であり、それに組み込まれている。多くの人々はこの世界の様々なストーリーに巻き込まれ、地球が多くの世界のうちの一つに過ぎないということを忘れている。

この認識は、自然の周期と同期していない 12:60 の周波数で作動する集合的な思考様式によって覆い隠されている。この周波数は、全体像や統合の記憶を曇らせる歪んだレンズを生み出している。

時間の法則には、様々なレベルの教えが存在する。

最も基本的であり、それゆえに最も重要なレベルは、13の月・28日の暦と、12:60 及び 13:20 の計時周波数に関するものである。これらは、人工的な時間と自然あるいは有機的な時間とを区別するものであり、「ナチュラルマインド瞑想」もこのレベルに含まれている。

これには、カレンダーの役割に関する理解、そして文化的な条件づけが「使用するカレンダー」に完全に依存しているという認識が含まれる。これは、このワークを理解するうえでの基礎的な教えである。

強調しておきたいのは、13の月の暦が単なる調和的な時間の枠組みではなく、思考の中の見えない扉を開くヴァイブレーションの鍵であり、物理世界の根底にある広大なシンクロニシティの網（ウェブ）と私たちをつなげるものだけということである。

13の月の暦を日常的に使うことで、シンクロニシティを感じる機会が増え、人や出来事の相互のつながりに対する同調性や感受性が高まる。

「機械時計は、何世紀にもわたって進化してきたが、1582年のグレゴリオ暦への改暦直後に完成し、人間が自然に打ち勝った証としてヨーロッパ人によって広められた。こうして人々のマインドは、自らが発明した時間を“第二の自然”として受け入れるようになった。その時間とは、私たちが12:60として特定した周波数にコード化されたものであり、不規則な12か月のカレンダーと、人工的に定められた60分を1時間とする基準によって、無意識的な精神比率を形成するものである。

この2つの要因が組み合わさって一つの計時周波数を形成した結果、歴史的な人間は「現代文明」——今日では既に「ポストモダン」と呼ばれてもいる——という、絶望的なまでに衰弱を招く精神的障害を背負わされることとなった。だが、ポストモダンはまだポスト・ヒストリカル（歴史を超えた状態）には至っていないのである。」——アグエイアス『時間とテクノスフィア』p.108

「もし私たちが脳に『どのように扱われたいか』をたずねたとして、ランダムで不規則なリズムで揺さぶられるのと、調和的でリズムカルなかたちで扱われるのと、どちら

がよいかと聞けば——脳だけでなく、身体全体が後者を望むであろうことは間違いな
い。」——イツハク・ベントフ『野生の振り子を追って』

13の月の暦と2つの計時周波数に関する理解を土台とすることで、この広大な知識体
系の他のレベルも徐々に理解できるようになる。その内容には、「時間の法則」や
「シンクロニック・オーダー（共時性秩序）」の教え、バイオスフィア（生物圏）か
らヌースフィア（精神圏）への移行、さらに高度なテレパシー視覚化の技法、『コズ
ミック・ヒストリー・クロニクル』、そして最も進んだレベルに位置する「シンクロ
トロン」などが含まれる。

平和の13の月とヌースフィアに関する省察

「[13の月の暦に替える平和の運動](#)」は、1994年にホゼ&ロイデオン・アグエイア
スによって、「13の月の暦」の普及を目的として創設された。この平和計画は、
「惑星芸術ネットワーク（PAN）」を通じて実施された。PAN（惑星芸術ネットワ
ーク）は1983年に創設され、アグエイアスのヴィジョン——世界中の芸術家たちがテレ
パシー的に関わり合いながら、産業時代の環境を、地球規模の巨大な芸術作品へと変
容させていくという構想——に基づいている。レーリヒによる「平和の旗」が、公式
ロゴとして採用された。

この平和の計画は、計時周波数に対する理解を深め、「13の月の暦」を世界的に広め
るための基盤を築く役割を果たした。しかし、不協和の時代におけるあらゆるムーブ
メントと同様に、様々な派閥の出現という結果ももたらした。

2004年までに、進化の次なる段階として「[ヌースフィア](#)」のヴィジョンが、「時間の
法則財団」の中で重視されるようになった。ホゼ・アグエイアス／ヴァルム・ヴォタ
ンによって提唱された「ヌースフィアII——時間の法則の偉大なる実験」がその中心に
据えられた。

このプロジェクトの目的は、ヌースフィア的な意識状態を予見し、それをシミュレー
トすることにあった。そうした意識状態はまた、銀河秩序としての現実を規定し、銀河
文明との通信手段をも定義するものである……。

13の月・28日の暦を基盤としながら、共時性秩序（シンクロニック・オーダー）はヌ
ースフィアの現実を日々体験するための実践法を提供する。このシステムは、地球の
自然周期と調和し、私たちが大いなるマインド／ヌースフィアとつなげる「生きた数
学」を体現している。

「生きた数学」という概念は、時間を循環的かつリズムミカルなプロセスとして体験的に理解することを指す。時間を直線的に進むものと見るのではなく、共時性秩序は、地球の自然なパターンを反映した相互に織りなす一連のサイクルとしての時間を示している。これらの周期に沿って生きることによって、私たちはヌースフィアと調律できるのである。

ヌースフィア II には、CREST (ナチュラルマインド回復センター) のヴィジョンも含まれていた。これは、瞑想とテレパシー研究の拠点が世界中に点在するネットワークである。土地を持っている人やコミュニティづくり、リトリートスペースに関心がある人々にとって、12:60 の枠組みを離れた新しい周波数に一時的に浸ることのできる聖なる避難所を求める声が、今まで以上に高まっている。

ヌースフィアに関するいくつかの考察

「ヌースフィアとは、バイオスフィアの鏡像対称的な反転である。生命は現在、外部エネルギーへの依存が内なるエネルギーの育成へと置き換わるという反転の過程にある。ヌースフィアは、バイオスフィア周期の最終段階におけるテクノスフィアの周期的な反転なのである。」——ホゼ・アグエイアス

これはどういう意味なのだろうか？

これは、私たちの現在の技術的進歩がより大きな進化のサイクルの一部であることを示している。この先の未来から振り返ってみれば、今の最先端技術でさえ原始的なものに見えるだろう。私たちは、より広い視野を得ることができるよう時間を前後に投影する能力を育む必要があるのだ。

ヌースフィアがバイオスフィアの鏡像対称的な反転であるという考えは、生命と意識の働き方における深遠な認識の転換を示唆している。

バイオスフィア (生物圏) では、生命は主に太陽光や栄養素といった外部エネルギー源に依存して生物学的プロセスを維持している。しかし、ヌースフィア (精神圏) は、内部エネルギーの育成が最も重要となる段階を表している。私たちは自己覚醒した源エネルギーの生成者となるのである。

この「反転」は単なる比喩的な概念ではなく、私たちの知覚構造と存在様式そのものが実際に変化していることを示している。条件づけられたマインドには、このシフトを

理解することができない。このシフトは、「時間とは意識の進化である」という時間の法則の核心的な教えと一致している。

過去の文明に関する省察

「人間存在の靈的次元を無視し、全てを経済の問題に還元し続ける限り、この世界はますます大きな破局の渦へと巻き込まれていくだろう。」

——ホゼ・アグエイアス／ヴァルム・ヴォタン

初期の母系的な、月の女神を基盤とする社会は、地球の周期と調和して生きていた。ほとんど全ての非西洋文化は、女神文化として始まっている。そこでは、一人ひとりの生命が大切にされていた。機械は依存症とスピード狂を生み出す。これこそが、多くの人々がリラックスすることを困難に感じ、不安を抑える薬に頼っている主な理由の一つである。

私たちはこの人工的な時間を生きているがゆえに、自然との対立を生み出し、それを制度化してしまった。自然の秩序は、それ自体と戦うことなどない。

文明が滅亡する主な原因は、「事実のねつ造」と「真実の腐敗」にある。真実が損なわれると、社会の根幹そのものが不安定となり、やがて滅亡へと至る。

私たちの現在の文明を検証すると、滅亡直前の古代ムー文明やアトランティス文明、そして私たちの太陽系内に存在したマルデク文明との驚くほどの類似点を見ることができる。

それらは、人類の精神の奥底に刻み込まれた大破局の記憶の原型として捉えられている。この記憶こそが、『コズミック・ヒストリー・クロニクル』全7巻の伝達を活性化させたのである。

私たちの現代社会は、急速な技術の進歩のなか、倫理的・生物学的な影響を顧みない傾向という、類似のパターンを反映している。加えて、心ない自然破壊や、真実を自分の利益のために操作する政治的・宗教的指導者による権力の乱用も存在する。これらは富裕層と貧困層の格差拡大をもたらし、不平等と社会正義の欠如を助長し、貪欲と競争の文化を生み出している。

生命力の乱用と搾取によって、事態はさらに悪化している。これが道徳の腐敗を招き、また私たちの創造のエネルギーであるセクシャリティに、対象化と墮落を引き起こしている。

さらに、特に高度なA I（人工知能）を利用した誤情報の拡散が、人々の間に混乱と分断を生み出している。

全体として、こうした価値観の浸食は集合的な精神に動揺をもたらし、広範囲にわたる精神的・身体的な不調和を引き起こしている。これらの問題は全て、他の時代や世界から持ち越された未解決のカルマの繰り返しと見なすことができる。（歴史のドリームスペルが最終的に破られるまでは）「歴史は繰り返す」。

目下のプロジェクト

FLT（時間の法則財団）は近年、毎年「[13の月のスター・トラベラーズ・アルマナック \(13 Moon Star Travelers Almanac\)](#)」と「[無料のポケットカレンダー](#)」を発売している。加えて、ヌースフィア・ノード（Noosphere Nodes）プロジェクトを開始しており、このプロジェクトに関する報告は、月の月に公開される予定である。

私たちはまた、ホロマインド・パーシーバーに関する包括的かつ決定版となるガイドの制作に取り組んでいる。これはホゼ・アグエイアスが遺した最後のワークであり、このガイドは未公開資料を含む全ての情報を一か所にまとめることを目指している。インターネット障害時にも有用なプリント用資料としての提供が予定されている。さらに、ヌースフィアに関する新刊書も準備中である。

私たちはまた、新たにコズミック・ヒストリーのウェブサイト「[cosmichistory.love](#)」を開設した。このサイトには「[インナー・タイム \(Inner Time\)](#)」という購読制（サブスクリプション）エリアが設けられており、より深く探究したい人々や、このワークの進化を支援しながらつながりを保ちたい人々のための場となっている。このサイトでは、進化を続ける「[260日の時間魔術\(260 days of Time Magic\)](#)」、ビデオ・シリーズ「[コズミック・ヒストリーの7つの鍵\(the Seven Keys to Cosmic History\)](#)」、[「21の銀河のアーキタイプ\(the 21 Galactic Archetypes\)](#)」のそれぞれに対する瞑想など、豊富な教えにアクセスできる。現在も新たなコンテンツが継続的に追加されており、今後さらに多くの情報が提供される予定である。

FLTのサイトがより集合体に焦点を当てているのに対し、コズミック・ヒストリーのサイトは、自己探究と個人の目覚めに重きを置いている。というのも、「集合」はまず

個人の内において実現されねばならないからである。「内なる知恵の夜明けがわき起こり、われらはすべてをはっきりと見る」

私たちは現在、他にもいくつかの重要なプロジェクトに取り組んでおり、それらは後日発表される予定である。これらのプロジェクトは、ごく少数の固定メンバーと、入れ替わりで参加するボランティアによって進められており、月々の支援もごくわずかである。活動の継続は主に書籍やアルマナックの販売、時折開催されるワークショップによって支えられている。私たちはこのワークの神聖さを守るため、それを商業化しないよう最善を尽くしてきた。

最も重要なことは、この教えを生きたものとして保持し、おおもとの情報に忠実でありながらも、私たちが生きる時代に合わせて適応・進化させていくことである。

FLT（時間の法則財団）の創設者でありクリエイターであるホゼ・アグエイアス／ヴァルム・ヴォタンは、2008年の報告書の中で次のように述べている：

「時間の法則財団の核心は、聖なる盟約の顕現である。それは第四次元の回路でありながら、第三次元の非営利法人として偽装されている。ほとんどの人はこれを知らず、私はこれを公にすることはほとんどない。しかし、この事実がその本質を変えるものではない……聖なる盟約とは、真理の意識と高次のマインドの表れである。真理の意識は目に見えないものかもしれないが、それこそがあらゆる困難にもかかわらず財団を正しい軌道に保ち続けてきたものである。」

私たちは、多くの人々がソーシャルメディアやウェブサイトで「13の月」とシンクロニック・コードの知識を広めているのを大変嬉しく思っている！ついでに、人々がこの教えをそのソースまでたどれるよう、時間の法則のサイト (lawoftime.org および/または cosmichistory.love) へのリンクを掲載していただきたい。

2080 日間のサイバーク周期 (2023~2029 年)

「黒点サイクルと相関するように、サイバークは地球全体を包み込んだ電磁場と連動しながら、互いに反転関係にある（訳注：南北に）2枚の1組のツオルキンを4セット、合計8つのツオルキンからなる場として提示される。」— 倫理ニューズレター 第1巻第7号

FLT（時間の法則財団）は、ヌースフィア・ノードが2080日周期で新たな物語を定着させ、描き出すというヴィジョンを提示した。最初の報告書は、元のヴィジョンとともに

に[リンク先](#)で見ることができる。ヌースフィアとは、地球の精神圏であり、本来的な知性システムを備えた圏域のことである。このヴィジョンは提示された後、各グループがそれぞれに形成され、自律的に導かれていくことが意図されていた。

この 2080 日周期は、2023 年 10 月 21 日 (NS1.36.4.4/KIN 1) に始まり、2029 年 7 月 2 日 (NS1.41.13.6/KIN 260) まで続く。この期間は、非常に大きな意識の可能性を秘めている。この周期は、ヌースフィア内における重要なサイバンの活性化と記憶の回収期間として特筆される。

この時間の窓は、「9 年間のヴィジョンマップ」において提示されていた。2029 年は転換点となる年である。この年に続いて始まる 10 年間の周期は、最初の新シリウス周期の 52 年 (1987 年~2039 年) の完成へとつながっていく。

私たちは「Inner Time」の場で最初の 260 日周期のパイロットプログラムを開始した。これにより、8 つの「スピン」すなわち 260 日間のツォルキンの 8 つの周期として展開される「260 日間の時間の魔術(260 days of Time Magic)」の第 1 期が始まった。カリキュラムは継続的に進化し、定期的なライブ配信を通じて、この教えのさまざまな側面に焦点を当てていく予定である。

サイバンは 2080 ユニットからなる重要なサイキック・ツールである。これらは地球の軌道上におけるオリジナルのシリウス送信コードの登録である。全てはこれらのコード、すなわち 2080 ユニットの中に含まれている。

サイバンのマトリックスは、地球の周囲に電磁場と連動した拡張テレパシー構造を形成する。この構造は、絶えず信号を発信し続けるヌースフィアのテレパシー場を表している。

例えば、様々な存在の思考周波数にチューニングすることで、シリウス B、アルクトゥルス、そしてその他の銀河文明の拠点からの送信を受信できるかもしれない。:)

失われた知識を取り戻すための 2080 日間

この 2080 日間のサイクルが始まる 8 日前に当たる 2023 年 10 月 13 日 (キン 253) に、NASA は「サイキ(Psyche)・ミッション」の探査機を打ち上げたと発表した。この宇宙船は、2026 年 5 月には火星をフライバイし、2029 年 7 月末に小惑星「16 プシケ」の軌道に到達する予定である。

これらの日付は、2023年から2029年にかけて展開するこの2080日間のサイクル——すなわち「サイバーク・サイクル」と正確に一致している。

NASAのサイキ・ミッションは、小惑星帯（アステロイドベルト）の調査と、地球の核および他の地球型惑星の核がどのように形成されたのかを解明することを目的としている。この探査は、「時間の法則」の研究の観点から見ても興味深いものである。

彼らのウェブサイトには次のように記されている：

「サイキとは、火星と木星の間のメイン小惑星帯に位置する、金属に富んだ小惑星『プシケ』を調査するNASAのミッションである。これは、岩石や氷よりも金属を多く含む小惑星を調査する、NASA初のミッションである……探査機サイキは、米国東部夏時間午前10時19分に、ケネディ宇宙センターから打ち上げられた。サイキはスペースX社のファルコン・ヘビー・ロケットに搭載され、発射台39Aから飛び立った。」

（私たちはNASAの支持者というわけではなく、シンクロニック・シンボル学の探究者なのである。）

探査機サイキ(Psyche)は、同じ名前を持つ小惑星プシケ（ラテン語読み）の探査に向けて航行中である。この小惑星は、1852年3月17日（キン28）に、イタリアの天文学者アンニバレ・デ・ガスパリスによって発見された。これは、火星と木星の間に位置するメイン小惑星帯の外縁部にある。この小惑星帯の領域は、かつて惑星（マルデク）だった第5軌道に相当する。

マルデクの破壊の記憶は、コズミック・ヒストリーの創生点であり、人類の深層心理に刻まれたカタストロフ（破局）の原型である。マルデクの第5軌道はボーデ数28に当たる。（詳細は『コズミック・ヒストリー・クロニクル第5巻：時空の書』を参照のこと）

日常的な言葉づかいにおいて、「プシュケー（psyche）」は人の内面の生活や精神状態を指す。ギリシア神話においては、プシュケーは魂の女神となる人間の女性である。彼女の物語は愛と変容の物語であり、さまざまな試練を経た末にエロス（キューピッド）と結ばれる。これは魂の旅路と、それが神なる愛と融合することの象徴である。

カール・ユングの集合的無意識の理論は、人類が共通の象徴や元型の集合をプシュケーの中に抱えているとするものである。これらの元型は、夢や神話、霊的体験を通じてアクセス可能な、太古の叡智や知識を宿している場合がある。

$$260 \times 8 \text{ サイクル} = 2080$$

以下に、2080 日を構成する 260 日周期の 8 つの開始日を示す。

先頭の数字は新シリウス周期 (New Sirius Cycle) を表している。「1」は新シリウス周期 1 を意味する。2 番目の数字は、新シリウス周期 1 の中での 52 年周期のうち何年目かを示している。3 番目の数字は 13 の月のいずれかを表し、4 番目の数字はその月中の何日目かを示している。

新シリウス周期 1 は 1987 年 7 月 26 日に始まり、この日は「1.0.1.1」と表記される (巻末の図を参照)。

キン 1 : 1.36.4.4 (2023 年 10 月 21 日)

キン 1 : 1.36.13.12 (2024 年 7 月 8 日)

キン 1 : 1.37.9.19 (2025 年 3 月 25 日)

キン 1 : 1.38.5.26 (2025 年 12 月 10 日)

キン 1 : 1.39.2.5 (2026 年 8 月 27 日)

キン 1 : 1.39.11.13 (2027 年 5 月 14 日)

キン 1 : 1.40.7.20 (2028 年 1 月 29 日)

キン 1 : 1.41.3.27 (2028 年 10 月 16 日)

キン 1 : 1.41.13.7 (2029 年 7 月 3 日)

そこに、**23 日間**のバイオテレパシー回路を 1 つ加えることで、**2080 日**になる。これは 1 つのサイバンク周期に相当する。

13 日のウェイブスペルは、260 日のツオルキンのフラクタルである。 $13 \times 20 = 260$ 。

260 日のツオルキンは、2080 日のサイバンクのフラクタルである。 $260 \times 8 = 2080$ 。

サイバークは地球の進化的タイミングプログラムの宇宙的登録および蓄積ユニットである。これは太陽黒点周期と相関している（『Earth Ascending』および『倫理プロジェクト』を参照）。

サイバークはヌースフィア（惑星マインド）の神経系である。ヌースフィアは地球の電磁場と直接関係している。ホロマインド・パーシーバー（「全マインドによる知覚」）は、ヌースフィアの感知装置である。

28年周期

28年周期においては、「預言の7年」との対称性を見てとることができる。一つのアプローチとしては、これら7年間のそれぞれについて、その前後の28日周期と関連づけて考察することである。

書籍『時間、シンクロシティとカレンダー改革、ホゼ・アグエイアスの先見的生涯』では、これら7年間のそれぞれが順に扱われており、当時この惑星に蒔かれた知識を理解するための良い出発点となっている。

預言の7年は、1993年にパカル・ヴォタンの預言が受信されたことにより始まった。この預言は（銀河マヤのマインドの軌道において）シンクロニック・オーダーの天体的調和を形成する数のテレパシー的理解によって伝えられる。これらの数が正しく理解されるとき、それらはテレパシーの乗り物となる。

この28日周期を用いて、自らの研究を行うことができる。たとえば、この教えは、1999年にチリのピカルキンで開催された49日間の「地球の魔法使いセミナー」において実を結んだことに注目できる。この出来事の対応周期は、2027年に再び巡ってくることになる。

1993年～2000年の「預言の7年」（磁気の種の年～共振の魔法使いの年）を区別するにあたり、その前後にある28年周期を調べることができる。

これらの日付とそこで起こった出来事を調べ、それぞれ3つの28日間からなるサイクルでのシンクロ的な同時性を見出してみよう。パターンを探すのだ。その日付が未来にあるなら、自らをそこに投影してみよう

2021 = 1993 - 1965

2022 = 1994 - 1966

2023 = **1995** - 1967
2024 = **1996** - 1968
2025 = **1997** - 1969
2026 = **1998** - 1970
2027 = **1999** - 1971
.....
2028 = **2000** - 1972
2029 = **2001** - 1973

2039年7月25日、キン33をもって「新シリウス周期1」が完了する。翌日、「白い銀河の魔法使い」とともに、2.0.1.1と表記する「新シリウス周期2」が始まる。

「グレゴリオ暦がその並び替えのサイクルを一巡するには28年かかる。28年ごとに、まるで時間の蓄音機のレコードのように、グレゴリオ暦は利用者を、月の長さや年の長さとはほとんど関係のない、まちまちに測られ不合理な名前がつけられた月々と、7日間の週というシステムによって精神的に疲弊させる仕組みの中へと導くのだ…」—ホゼ・アグエイアス／『時間とテクノスフィア』

19コード

私たちはキン19の太陽年の環にあるため、13:20の周波数の二十進法による数学が、シンプルな点と棒の記法で表される「0~19コード」として知られていることを思い出す。

19コードは、ラシャド・カリファ博士によって初めて発見されたように、コーラン全体の構造の基礎にもなっている。これは、マザー・ティネッタ・ムハンマドの重要なテーマであり、彼女は『ファイナル・コール』紙に「数字19の解明」という連載コラムを書いていた。

この数字のセットは、放射状マトリックスの数学も示しており、放射状に配置された数字のペアが10個存在する。それぞれのペアの合計は19となっている。

0 + 19 = 19
1 + 18 = 19
2 + 17 = 19
3 + 16 = 19
4 + 15 = 19

$$5 + 14 = 19$$

$$6 + 13 = 19$$





$$7 + 12 = 19$$

$$8 + 11 = 19$$

$$9 + 10 = 19$$

「全ては数字。神は数字だ。神は全てに存在する。」
 — 『時間の力学』基礎条件 19.13

新シリウス周期1(1987~2039年)

GK水星 GK木星 SP冥王星 SPマルデク	(28)		NS1.0 ☰ 34 1987-88	NS1.4 ☷ 194 1991-92	NS1.8 ☹ 94 1995-96	NS1.12 ☱ 254 1999-2000	NS1.16 ☵ 154 2003-04	NS1.20 ☶ 54 2007-08	NS1.24 ☳ 214 2011-12	NS1.28 ☲ 114 2015-16	NS1.32 ☱ 14 2019-20	NS1.36 ☰ 174 2023-24	NS1.40 ☷ 74 2027-28	NS1.44 ☹ 234 2031-32	NS1.48 ☶ 134 2035-36
	(388)		NS1.1 ☰ 139 1988-89	NS1.5 ☷ 39 1992-93	NS1.9 ☹ 199 1996-97	NS1.13 ☱ 99 2000-01	NS1.17 ☵ 259 2004-05	NS1.21 ☶ 159 2008-09	NS1.25 ☳ 59 2012-13	NS1.29 ☲ 219 2016-17	NS1.33 ☱ 119 2020-21	NS1.37 ☰ 19 2024-25	NS1.41 ☷ 179 2028-29	NS1.45 ☹ 79 2032-33	NS1.49 ☶ 239 2036-37
	(52)		NS1.2 ☰ 244 1989-90	NS1.6 ☷ 144 1993-94	NS1.10 ☹ 44 1997-98	NS1.14 ☱ 204 2001-02	NS1.18 ☵ 104 2005-06	NS1.22 ☶ 4 2009-10	NS1.26 ☳ 164 2013-14	NS1.30 ☲ 64 2017-18	NS1.34 ☱ 224 2021-22	NS1.38 ☰ 124 2025-26	NS1.42 ☷ 24 2029-30	NS1.46 ☹ 184 2033-34	NS1.50 ☶ 84 2037-38
	(4)		NS1.3 ☰ 219 1990-91	NS1.7 ☷ 249 1994-95	NS1.11 ☹ 149 1998-99	NS1.15 ☱ 49 2002-03	NS1.19 ☵ 209 2006-07	NS1.23 ☶ 109 2010-11	NS1.27 ☳ 9 2014-15	NS1.31 ☲ 169 2018-19	NS1.35 ☱ 69 2022-23	NS1.39 ☰ 229 2026-27	NS1.43 ☷ 129 2030-31	NS1.47 ☹ 29 2034-35	NS1.51 ☶ 189 2038-39

1987年の夏至（北半球）の34日後、白い銀河の魔法使い キン34 の日に、預言の大周期を完了させるためのゲートが開かれた。これにより、新シリウス周期1が始動した。これは52年周期であり、最初の周期は2039年に完了する。その後、新シリウス周期2が始まり、2091年に完了、さらに次は2143年に完了するというように続いていく。

上の図に示されているように、各年は4つの年の担い手（イヤール・ベアラール）：魔法使い、嵐、種、月のいずれかによってコード化されている。各年は常に7月26日に始まり、翌年の7月24日に終わる。7月25日は「時間をはずした日」となる。「NS1」は新シリウス周期1を意味し、年はNS1.0からNS1.51までの番号で表される（合計52年）。カウントは左上の「白い銀河の魔法使いの年（キン34）」から始まり、これがNS1.0と表される。これは、新シリウス周期1の開始から0年が経過したことを意味している。新シリウス周期1の最後の年は、「赤い共振の月の年（キン189）」であり、NS1.51と表される。その翌年に、新シリウス周期2（NS2）が始まる。